



**神戸大学交響楽団  
第31回定期演奏会**

1981年12月12日(土)  
神戸文化ホール(大)





## プ ロ グ ラ ム

「セヴィリアの理髪師」序曲……………G. ロ ッ シ ー ニ

指 揮 船 曳 哲 也

交響曲 第8番 口短調 D.759「未完成」……F. シ ュ ー ベ ル ト

指 揮 守 山 俊 吾

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

交響曲 第5番 木短調 作品64……………P. チャイコフスキー

指 揮 守 山 俊 吾

## プロフィール



### 指揮者 守山 俊吾

1965年大阪音楽大学（クラリネット科）卒業。1971年渡欧し、イタリアのセントチェチリア音楽院のパオーネ、オーストリアのモーツァルテウム音楽院でイエッテルの各氏に師事。同音楽院のコンサートに出演。1975年ヴィエール・フィルとモーツァルトのクラリネット協奏曲を三度、1976年同オーケストラとウェーバーのクラリネット協奏曲第二番を、1977年大阪府音楽団定期演奏会にソリストとしてウェーバーの協奏曲第一番を演奏する。1979年辻久子、村井祐児、瀬野光子、家村雅子各氏と室内楽コンサートに出演。現在、大阪府音楽団の指揮者として活躍中。

喜田賦、村瀬二郎、宇宿允人各氏に師事。



### 指揮者 船曳 哲也

氏が指揮者になるべく当オケに入団してから4年の歳月が流れました。3回生で指揮を始めるまでは、ヴィオラの17分の1として日の当たらぬ道を歩いてきたのでした。その氏も、昨年の第9、サマコンのチャイ1、とようやくひのめを見、今回のチャイ5、セヴィリアの理髪師では、貫禄さえ感じさせるようになりました。当初の黒ぶちメガネ時代から見せたユニークな表情も、コンタクトに変えた今ではメガネで培った顔の筋肉を自由に駆使して、よりいっそうの多彩さを見せます。それにも劣らず楽しいのは、パッセージを歌うときの氏の擬音語です。たとえば普通の指揮者なら「ティヤタタ」とか「パラパパ」というところを、「スコトコ」などと表現するのです。練習風景を知らない皆さんは、おもしろいだけの指揮者だと思われるかもしれませんが、氏が自分のイメージを伝えようという情熱の現れであり、イメージと演奏との落差のために思わず起こす行動なのです。その情熱あふれる指揮を充分にお楽しみ下さい。

最後に氏の言葉をどうぞ。

「私、巨人とプロレスの味方です。」

あなたの愛器のための——

## 世界の 管弦楽器及び附属品輸入元

株式会社 タツノヤ商会

本社 大阪市阿倍野区阪南1丁目7番17号 電話大阪(06)623-3521

東京営業所 東京都渋谷区東2丁目15-3 電話東京(03)406-1498